

# 2021年 選挙公報

2021年の役員選挙と会長候補者投票について、候補者の選挙公報を次のとおり掲載する。

- ・氏名
- ・年齢（2021年4月1日現在）
- ・所属（本人申告のもの）
- ・日本作業療法士協会の活動歴（会員システムに登録されている2020年度時点の任用期間のもの）
- ・顔写真と宣伝文（候補者本人による任意提出のもの）

## 役員選挙（第2号議案関連）

### 1 改選する役員

- ・理事（定数：20名以上23名以内）
- ・監事（定数：2名以上3名以内）

### 2 選挙の実施方法

- (1) 役員選挙は、定時社員総会における役員選任決議として、議決権行使書面の提出または総会出席者の投票により実施する。
- (2) 実施日 2021年5月29日（土曜日）
- (3) 実施場所 一般社団法人日本作業療法士協会事務所（議場参加者の数によって変更の可能性あり）
- (4) 選挙人 一般社団法人日本作業療法士協会の社員
- (5) 被選挙人
  - ・理事…立候補24名
  - ・監事…立候補1名並びに理事会推薦候補2名

### 3 決議の方法

- ・選挙人は、議決権行使書面の提出または総会議場における投票により、候補者一人一人について賛成または反対の意思表示を行う。
- ・候補者ごとに決議を行い、有効な議決権の過半数の賛成票が得られた者のうち、賛成票の多い順で定数に達するまでの者を役員に選任する。
- ・理事の選任決議において、最大定数である23人目の理事が過半数の賛成票同数のために決定できない場合は、規定に基づき、社員総会の場において候補者本人による抽選を行う。
- ・理事の選任決議において、過半数の賛成票が得られたにもかかわらず、最大定数23名の枠からもれた候補者は補欠理事に選任する。（第3号議案関連）
- ・過半数の賛成票を得た候補者が最少定数に満たなかった場合は、規定に基づき、改めて立候補を募り臨時社員総会において再選挙を行う。

## 会長候補者投票（第4号議案関連）

### 1 選出する者

会長候補者 1名

### 2 投票の実施方法

- (1) 会長候補者投票は、定時社員総会における会長候補者選出決議として、議決権行使書面の提出または総会出席者の投票により実施する。
- (2) 実施日 2021年5月29日（土曜日）
- (3) 実施場所 一般社団法人日本作業療法士協会事務所（議場参加者の数によって変更の可能性あり）
- (4) 投票人 一般社団法人日本作業療法士協会の社員
- (5) 被投票人 会長…立候補2名

### 3 決議の方法

- ・投票人は、議決権行使書面の提出または総会議場における投票により、候補者のうち1名に賛成の意思表示を行う。
- ・有効な議決権の過半数票が得られた1名を社員総会選出の会長候補者とする。
- ・過半数票が得られても第2号議案で理事に選任されていない場合は会長候補者にはなれないため、規定に基づき、「会長候補者なし」として理事会に意見提出する。
- ・過半数票を得た候補者がいない場合は、規定に基づき、「社員総会選出の会長候補者なし」として理事会に意見提出する。



**理事立候補**

理事 1

	<p>イケダ ノゾム 池田 望 (56 歳) 所属：札幌医科大学</p>
	<p>協会活動歴：  <b>【役員履歴】</b> 理事 2017.05- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 養成教育部部長 2006.06-2009.06          教育部副部長 2019.05- 現在          国際部副部長 2019.05- 現在          制度対策部副部長 2017.06-2019.05          教育部 学校教育水準検討委員会委員長 2003.06-2005.06          教育部 養成教育委員会委員長 2005.06-2006.06          教育部部員 1999.12-2003.06, 2012.12-2021.03          WFOT 認定等教育水準審査委員会委員 2004.03-2005.06          広報部部員 2005.06-2007.06          養成教育部部員 2007.03-2009.06          表彰審査会委員 2017.06- 現在  <b>【その他の役職歴】</b> 社員(北海道) 2019.12- 現在</p>
	<p><b>【経歴】</b>          養成校卒業後、精神科病院勤務を経て札幌医科大学保健医療学部に入職し、精神障害領域を中心に学部・大学院の教育と研究に携わっています。学会・社会的活動としては日本精神障害者リハビリテーション学会、日本アルコール関連問題学会等の理事として学際的な交流を進めているほか、障害者就労支援関連のNPO や社会福祉法人、北海道若年認知症の人と家族の会等の理事、公職として札幌市認知症支援事業推進委員会副委員長、同介護保険事業計画推進委員会副委員長を拝命し、地域での支援活動や自治体の支援システム作りに携わっています。</p> <p><b>【立候補する理由】</b>          国は子供・高齢者・障害者を含めた地域共生社会を実現するための包括的な支援体制の構築を目指しています。そのためには医療のみならず福祉・教育・司法・就労・災害・保健などにまたがる多くの課題に取り組む必要があります。作業療法士はこの取り組みに貢献できる、あるいはすべき重要な職種です。私自身、学生・院生・同僚らとの教育研究や地域における社会活動を進める中でその思いをさらに強くしています。協会はこれまでに増して作業療法士、特に若い世代の方々が力を存分に発揮できる環境づくりを進めなければなりません。現在組織改編を進めていますが、情報収集と分析能力、柔軟で迅速な意思決定のできる体制が求められます。中長期的には戦略的な研究支援、国際的動向を踏まえての養成教育の充実と高度化、多職種・地域・産学の連携の充実など、「実効性」を伴う様々な取り組みが引き続き必要です。人々の健康と幸福に寄与する新たな組織の発展に向けて、多くの有能な会員諸氏と連携しながら尽力したいと思います。</p>

理事 2

	<p>イワサ ヒデン  <b>岩佐 英志</b> (55 歳)                      所属：合同会社ラシエイド</p>
	<p><b>協会活動歴：</b>  <b>【役員履歴】</b> 理事 2019.05- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 教育部副部長 2019.06- 現在  47 都道府県委員会副委員長 2019.06- 現在  事業部部員 2007.06-2009.06  教育部部員 2011.06-2017.03  学術部部員 2013.04-2015.03  制度対策部部員 2013.07-2021.03  47 都道府県委員会準備委員会委員 2014.06-2015.03  47 都道府県委員会委員 2015.04-2019.06  表彰審査会委員 2019.06- 現在  <b>【その他の役職歴】</b> 社員（徳島県） 2011.12-2019.12</p>
	<p>この度、2 期目理事として立候補をいたします。この 2 年間の中で COVID-19 の影響により、対面で行っていた学会をはじめ、生涯教育研修や会議は全てオンラインとなりました。担当させていただきました教育部も 47 都道府県委員会、運転と作業療法委員会についても同じく運用のモデルチェンジが必要となりました。検討や対応に時間を要したことは否めませんが、新しいオンラインという形での参加の敷居が下がったことはむしろメリットであったのではないかと考えています。「ピンチはチャンス」と申します通り、新たな工夫やシステムになるのだと思います。しかし、リハビリテーションは流れ続けます、そこに対象者がいる限りです。これから地域課題がますます浮き彫りになることから、地域包括ケアシステムの中にしっかりと作業療法が根付くよう地域作業療法士の皆様と共に一つひとつ課題を解決していきたいと考えています。他職種と連携は当然のことながら、異職種と新しいイノベーションを持って可能な限り納得した形での社会参加を支援する立場で協会理事として活動できればと考えています。何卒、会員皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。</p>

理事 3

	<p>ウダ カオル  <b>宇田 薫 (53 歳)</b>                      <b>所属：医療法人おもと会</b></p>
	<p><b>協会活動歴：</b>  <b>【役員履歴】</b> 理事 2011.06-2014.06                            常務理事 2014.06- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 教育部副部長 2019.06- 現在                            47 都道府県委員会委員長 2015.04-2016.03, 2017.06- 現在                            47 都道府県委員会準備委員会委員長 2014.06-2015.03                            50 周年記念式典実行委員会副委員長 2015.06-2016.03                            保健福祉部部員 2007.06-2009.06                            生涯教育部部員 2007.06-2011.06                            事業部部員 2009.06-2011.06                            教育部部員 2012.06-2015.03                            表彰審査会委員 2014.01-2016.03, 2017.06-2019.05                            倫理委員会(常設)委員 2014.07-2016.03, 2017.06- 現在                            白書委員会委員 2019.07- 現在  <b>【その他の役職歴】</b> 社員(沖縄県) 2011.12-2015.12</p>
	<p>この度、理事 6 期目の立候補をさせていただきます。1 期目より士会組織担当を、3 期目より 47 都道府県委員会の委員長を務めさせていただきました。今後、準備が進んでおります協会組織改編の中で、本委員会の名称だけでなく委員会の位置づけ、機能の整理・継続・発展が必要とされています。改編に向けてのそれらの作業を、47 都道府県委員会の委員はもちろん、関係いただいている方々と共に、やり遂げさせていただきたいと思っております。現在に至るまでも、常に本委員会の運営方法や役割を議論してきましたので、今までいただいたご意見のみならず、改編までの 2 年間にさらなる議論を重ね、今まで以上に分かりやすい機能を携えた状態で新組織体制に対応できるようにと考えております。</p> <p>また、「女性会員の参画促進事業」担当理事としては、理事や代議員の女性会員割合が増えない現状や研修会受講の難しさなどの課題が続いていますが、今回の covid-19 禍での ICT 活用の促進により「移動」という物理的な問題は限りなく小さくなったと考えますので、女性会員に限らず、多くの会員が協会活動への参画や研修会の受講がより容易になるよう、今後は残された課題軽減のための提案を発してまいります。私自身が子育てを終え、介護保険を利用する親が居る。また離島へき地を抱える地域で暮らしているという現状をしっかりと理解し、様々な条件下で頑張っている会員に寄り添った意見を携えて理事会に臨みます。</p> <p>この 10 年間、代わり映えはしませんが、「しなやかに強く」をモットーに頑張ってまいりたいと思っております。</p>

理事 4

	<p>オオシマ ノブオ  <b>大嶋 伸雄</b> (63 歳)                      所属：東京都立大学</p>
	<p><b>協会活動歴：</b>  <b>【部署活動履歴】</b> 学術部部員 1999.08-2001.07, 2004.09-2007.06  生涯教育システム審査委員会委員 1998.10-2003.06  作業療法成果検討委員会委員 2001.06-2005.06</p>
<p>〈県士会活動歴〉  1998-2003 年 埼玉県作業療法士会 学術部長・編集委員長  2003-2005 年 埼玉県作業療法士会 会長</p> <p><b>【日本の作業療法の現状と課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1960 年代、米国の作業療法が「医療モデル」の時代。そのモデルが作業療法基準として日本に輸入された。</li> <li>○現在、米国の作業療法は「医療＋社会参加モデル」の最盛期を迎え、OT 養成校卒業生の 50%が「学校作業療法士」として勤務する人気職種となっている（平均年収 720 万円以上）（養成校は修士レベル：一般大学を卒業して養成大学院へ入学し資格を取得）。</li> <li>○米国の作業療法は「リハだけの専門職」ではなく「作業療法の中にリハがある」という広い視点。作業療法士の社会進出がどんどん進んでいる。</li> <li>○日本の↑「理学療法士・作業療法士法」への勘違い  「医療分野でなければ生きていけない⇔という OT の思い込み ×」</li> <li>○回復期リハでは「OT の PT 化」が深刻な問題</li> </ul> <p><b>【日本の作業療法を蘇らせるための公約】</b></p> <p>作業療法士とは「対象者（患者、クライアント）に自分がやりたいこと（健康的・理想の生活⇒意味ある活動）に気づかせ、出来ることを増やし、主体的な生活を実現させる」専門職です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「心と身体」を同時に診れる作業療法士養成への教育再編。医療以外の分野で働くための基礎教育・応用科目を新設する。卒後教育の再編。</li> <li>2. 学校作業療法士を 10 年以内に 1 万人、全国の小学校に配置する。</li> <li>3. 行政（児童相談所、生活相談・等）・保健所（介護予防、認知症予防・等）、一般企業、公安委員会（免許センター）などに勤務する作業療法士を大幅に増やす。</li> </ol>	



理事 6

	<p>オカモト ヨシエ  <b>岡本 佳江</b> (54 歳)                      所属：太田総合病院附属太田西ノ内病院</p>
	<p><b>協会活動歴：</b>  <b>【役員履歴】</b> 理事 2019.05- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 事務局次長 2019.06- 現在                                   財務部部員 2009.06-2011.06                                   表彰審査会委員 2019.06- 現在                                   協会＝士会員実現に向けた検討委員会委員 2020.06- 現在                                   事務局財務担当 2011.06-2021.03  <b>【その他の役職歴】</b> 社員(福島県) 2019.12- 現在</p>
<p>この度、理事に立候補いたしました。2回目の理事立候補となります。平成21年より10年間日本作業療法士協会財務部員として活動していたことから、この2年間は財務担当事務局次長を拝命し事務局の運営に主に関わりました。そして多くの作業療法士のために大きな視点で様々なことをとらえ、議論をし前進していく日本作業療法士会という組織の中で自分の出来る限りの務めをさせていただきました。また日本作業療法士協会は女性会員の協会活動への参画も積極的に打ち出しており、女性会員が活躍できるような場をこれからも作っていったら良いと思っています。これまで培ってきた知識、経験を活かし、今後も日本作業療法士協会の発展に貢献できるよう精一杯尽力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。</p>	









理事 11

	<p>サトウ タカオミ 佐藤 孝臣 (52 歳) 所属：株式会社ライフリー</p>
	<p>協会活動歴：  <b>【役員履歴】</b> 理事 2015.05-2019.05          常務理事 2019.05- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 地域包括ケアシステム推進委員会委員長 2015.07-2017.03          制度対策部副部長 2015.06-2016.03          47 都道府県委員会副委員長 2017.06-2019.05          福祉用具部部員 2009.06-2011.06          制度対策部部員 2011.06-2012.03          47 都道府県委員会委員 2015.06-2016.03          地域包括ケアシステム推進委員会委員 2017.04-2020.03          倫理委員会 (常設) 委員 2019.06- 現在  <b>【その他の役職歴】</b> 社員 (大分県) 2011.12- 現在</p>
	<p>理事を 3 期務めさせて頂きました。その間、地域包括ケアシステム推進委員会の担当理事として地域ケア会議、総合事業への各自治体での作業療法士の参画を目指しました。結果、多くの作業療法士が地域ケア会議や総合事業を含む地域支援事業全般に関わることができたことは、各士会の地域包括担当者、士会長の皆様のお力添えと感謝申し上げます。しかし課題もあります。各自治体は地域ケア会議から総合事業の通所型 C や訪問型 C の事業の展開を目指しており多くの作業療法士の参画を期待しています。この期待に応えられる人材の育成も急務です。またコロナ過において通いの場などの一般介護予防事業も休止している状態でフレイルの悪化が危惧される高齢者が増加しており、その対応も我々と自治体が連携して取り組まなければならない事業でもあります。そして協会も国が提唱している地域包括ケアシステムのさらなる深化に対応できる組織再編も必要になってきます。高齢化に伴う社会システムの激変が確実な中、我々作業療法士が国民の健康寿命の延伸にさらなる寄与できるよう理事として業務遂行に邁進したいと考えております。宜しくお願い致します。</p>

理事 12

	<p>シミズ ケンエツ 清水 兼悦 (58 歳)                      所属：札幌山の上病院</p>
	<p>協会活動歴：  <b>【役員履歴】</b> 理事 2015.05-2019.05                            常務理事 2019.05- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 学術部副部長 2015.06-2016.03, 2019.06- 現在                            災害対策室副室長 2015.06-2016.03, 2017.06-2019.05                            災害対策室室長 2019.05- 現在                            生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会全国推                            進委員 2013.09-2015.03                            制度対策部部員 2014.04-2015.03                            47 都道府県委員会準備委員会委員 2014.06-2015.03                            47 都道府県委員会委員 2015.04-2021.03                            表彰審査会委員 2015.06-2016.03, 2017.06-2019.05                            学術部部員 2017.04-2019.03                            倫理委員会(常設) 委員 2019.06- 現在                            白書委員会委員 2019.07- 現在  <b>【その他の役職歴】</b> 社員(北海道) 2011.12- 現在</p>
	<p>しなやかな暮らしに求められる作業療法の実現</p> <p>これまでに、理事4年と常務理事2年を拝命し、学術部の学会担当、災害対策室やJRAT、地域保健、レジリエンスジャパン推進協議会と連携して平時から有事に備える resilience (強さ・しなやかさ) の構築などの役割を分担してきました。</p> <p>この2年、協会のシンクタンクの機能を有する常務理事会での議論を通して、いま、自分ができる・しなければならぬ役割として、平時から傷病の発症・増悪や感染症禍・災害発生などの有事に備えた、地域(土会と連動した展開が必要)における作業療法の実践や振興、学際的に広い基盤や多くの実績のある作業療法の研究や教育を通じた、各人のしなやかな暮らしに求められる作業療法士の育成と普及にあると思っています。</p> <p>特に、学術的根拠の蓄積と、それに基づいた養成校教育も含めた一貫した養成教育、およびそれらによる実績を通じた地域への啓発と振興は喫緊の課題と捉えています。</p> <p>これからの2年間は、つぎの10年間につながる重要な期間とっておりますので、皆様のお声とともにご支援お願いいたします。</p>

理事 13

	セキモト ミツシ <b>関本 充史 (42 歳)</b> 所属：株式会社かなえるリンク
	協会活動歴： 【役員履歴】 理事 2019.05- 現在 【部署活動履歴】 広報部副部長 2019.06- 現在 47 都道府県委員会副委員長 2019.06- 現在 広報部部員 2012.01-2017.03 生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会全国推進委員 2013.09-2019.03 47 都道府県委員会委員 2019.04-2019.06 MTDLP 士会連携支援室推進委員 2019.06-2020.03 協会＝士会員実現に向けた検討委員会委員 2020.06- 現在 【その他の役職歴】 社員(大阪府) 2015.12- 現在
<p>私は 1 期理事を務めさせて頂き、広報部、47 都道府県委員会、「協会員＝士会員」実現のための検討委員会、リハビリテーション専門職三団体協議会における訪問リハビリテーション振興委員会を担当させて頂き、作業療法の普及・啓発、都道府県との連携、日本理学療法士協会・日本言語聴覚士協会との連携、地域リハビリテーションの推進に邁進して参りました。</p> <p>地域包括ケアシステムが推進され、多職種協業が求められています。作業療法士は、生活課題を導き出し、その具体的解決策を提供できる職種ですが、まだまだ地域では不足しています。また、その求められる分野も介護予防・就学・就労・司法・保健分野など幅が広がっています。時代にあった作業療法を届けられるよう、新たな視点で作業療法を見つめ直し、国民に役立ち求められるよう未来ある職種として協会活動を展開していきたいと考えております。そのためには、都道府県との連携を深め、ニーズ把握・分析・実行を迅速に対応できる強い組織づくり、ニーズに応えられる人材育成、そこで活躍できる制度づくりに貢献していきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。</p>	

	タカシマ カズノリ <b>高島 千敬</b> (48 歳)                      所属：広島都市学園大学
	<b>協会活動歴：</b> <b>【役員履歴】</b> 理事 2011.05- 現在 <b>【部署活動履歴】</b> 学術部内部障害委員会委員長 2007.06-2011.06 学術部副部長 2012.04-2013.05, 2017.06- 現在 制度対策部副部長 2013.05-2016.03, 2019.06- 現在 保険部部員 2006.06-2011.06 学術部部員 2007.06-2011.06, 2019.06-2021.03 生涯教育部部員 2009.06-2011.06 制度対策部部員 2011.06-2015.03 教育部部員 2013.04-2015.03 表彰審査会委員 2015.06-2016.03, 2017.06- 現在 <b>【その他の役職歴】</b> 社員(大阪府) 2011.12-2015.12 社員(広島県) 2019.12- 現在
	<p>今期で5期10年の理事活動を終えることになりました。これまで主に制度対策部における役割を担ってきましたが、この間、医療保険においては医療費の総額が40兆円を超え、リハビリテーション料の占める割合も2兆円規模となりました。</p> <p>回復期リハビリテーション病棟の成果主義の導入など、その質が問われる時代に移行してきています。また、今後一定の期間は高齢者数の増加が予想され、その後は減少に転ずると予測されています。一方で、療法士数は増加の一途であり、医療保険や介護保険下の報酬は死守しつつ、更なる職域の拡大が欠かせません。</p> <p>加えてこの一年は、一昨年末には全く予想もしなかった新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、作業療法士は様々な場面で大きく翻弄されました。臨床場面はもとより、教育、研究等においても同様であったと思われます。</p> <p>ただし、感染管理に関しては、これまでになく徹底した対応が可能となったのではないのでしょうか。</p> <p>今後は、新型コロナウイルス感染症の終息を見据え、感染管理を徹底した上での新しい社会の中での作業療法を構築していくことが重要であると考えます。</p> <p>遠隔のリハビリテーションの評価や施設外リハビリテーションの単位制限の撤廃など多くの課題がありますが、根拠となる実践を積み重ね取り組んでいきたいと考えています。そのためには会員の皆様の良い仕事の蓄積が欠かせません。</p> <p>新しい生活、社会において国民を支える作業療法の構築のために、会員の皆様とともに歩んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>

	<p>タケナカ サ エ コ 竹中 佐江子 (42 歳) 所属：株式会社東京リハビリテーションサービス</p>
	<p>協会活動歴：</p>
<p><b>【その子の小さな手に大きな未来を】</b></p> <p>○立候補理由</p> <p>私は、卒業後一貫して小児現場に携わってきました。そして、地域での小児のリハニーズに対し、提供できるリソースの少なさを実感しました。そこで、一人でも多くの作業療法士が小児に関われるよう、法人の取締役となり小児実践の場の提供に取り組んで参りました。これまで作業療法士の採用面接時において「発達障害分野に進むために作業療法士免許を取得したにも関わらず、就職先がなかった。」という声が多く聞かれました。まさに、地域での小児ニーズと作業療法士の就職先意向のミスマッチが進行しているのです。</p> <p>私は、作業療法士のキャリアサポートにおいて、実践から学ぶ機会をいかに組織的に設けるかが重要だと考えます。実践の場があつてこそ、主体的に学ぶ意欲が育まれます。しかしながら、現在のわが国では、作業療法士のキャリア形成は公的保険制度によって左右されています。作業療法士の可能性を広げるためにも、医療介護の制度の枠に捉われず、福祉、教育、保健、産業の分野においての実績作りが不可欠です。作業療法士の活躍の場が病院から地域に拡大した今、医療的知識や技術のみならず、自らの力で地域ニーズを開拓し、その環境下において自分の役割を理解し、専門性を発揮できる力が必要です。</p> <p>私は、当協会において、作業療法士が専門職として自らの力でキャリアを積んでいくことができるよう、実践の場の提供及び制度の枠に捉われない組織作りを目指し立候補いたしました。</p> <p>○経歴</p> <p>2002 年神戸大学医学部保健学科卒業 ボバース記念病院、森之宮病院を経て民間会社で小児訪問に従事 2012 年法人取締役 日本訪問リハビリテーション協会理事</p>	

理事 16

	<p>タニカワ マスミ 谷川 真澄 (58 歳)                      所属：有限会社なるぎ</p>
	<p>協会活動歴：  <b>【役員履歴】</b> 理事 2019.05- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会委員長  <span style="float: right;">2015.04-2019.03</span>                  MTDLP 士会連携支援室室長 2018.04-2019.06                  保険部部員 2001.06-2003.06                  規約委員会委員 2005.06-2007.06                  生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会委員  <span style="float: right;">2014.03-2015.03</span>                  地域包括ケアシステム推進委員会委員 2015.08-2020.03</p>
<p>生活行為向上マネジメント（MTDLP）は開発・推進・実践と非常に多くの会員の努力と                  思いで10数年にわたり育み、現在ではすべてのOTに認知されたと言えます。しかしながら                  実践はまだまだ少ない状況です。活動と参加に向けた作業療法をもっと増やすために                  2019年から関係者間で協議を重ねてきました。結果、2021年度、公益事業として「                  MTDLP室」が新設、MTDLPを根本から見直すことが決まりました。会員・組織と一丸                  となり、この大きな山を乗り越えたいと思います。</p> <p>新型コロナウイルスの問題は、協会運営を大きく変えています。生涯教育等教育機                  会の維持、感染予防下の作業療法の実施方法の周知等、理事として1年間、COVID-19                  対策班への情報提供や、WEB研修推進に向けても部署間連携に努めました。影響は協                  会入会者の減少にも及んでいます。今回、協会から派遣され養成校の卒業生に向                  けて協会活動をPRしました。会員獲得は作業療法の未来、もっと議論し戦略を立                  てるべきと痛感しました。一方、作業療法対象者においては、活動制限等生活環                  境の変化による生活行為の障害が起こっています。新しい生活様式の中、作業療                  法ができることを組織的に整理・対応する必要があります。私自身、地元で地                  域支援事業等に関わっているので、その取り組みを活かした協会活動に寄与でき                  ればと思います。</p> <p>理事の立場として、大所高所の視点、適切な意見を出せるよう一層研鑽し、作                  業療法をもっと国民が分かるものに、作業療法士自身がそのために努力をする                  ような協会組織となるよう努める所存です。どうぞよろしくお願いいたします。</p>	

理事 17

	<p>ナカムラ ハルキ  <b>中村 春基</b> (65 歳)                      所属：一般社団法人日本作業療法士協会</p>
	<p><b>協会活動歴：</b>  <b>【役員履歴】</b> 理事 1985.08-1989.07                            常務理事 1989.08-2001.07                            副会長 2001.06-2009.06                            会長 2009.06- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 福利部部长 1989.08-1991.07                            広報部部长 1991.08-1995.7                            事業部部长 1997.08-2001.07                            渉外部部長 2001.06-2009.06                            評価法検討委員会委員 1983.06-1985.07                            学術部部員 1985.08-1991.07                            広報部部員 1987.08-1989.07, 1999.08-2001.07, 2003.06-2005.06                            身体障害作業療法委員会委員 1989.08-1991.07                            事業部部員 1995.08-1997.07                            企画調整委員会委員 1995.08-1999.07, 2001.06-2003.06                            30周年記念式典準備運営委員会委員 1995.08-1997.07                            30周年記念誌編集委員会委員 1995.08-1997.07                            表彰委員会委員 1997.08-2001.07                            公益法人制度対策委員会委員 2009.06-2011.06  <b>【その他の役職歴】</b> 社員(兵庫県) 2011.12- 現在                            WFOT 代表 2015.06- 現在</p>
<p>2019/2020 は診療報酬改定、介護報酬改定、総合支援法サービス報酬改定があった。会員の          実践、制度対策部の各委員会の尽力で大枠では作業療法士にとって、また、国民にとっても意          義ある改正になったと評価している。なんといっても、活動と参加の方向性が堅持されたこと          は大きい。</p> <p>2020 年度は、COVID-19 で始まり翻弄された 1 年であった。会員の皆様におかれましては、          厳しい環境の中、作業療法の業務に尽力されたことに心から感謝と敬意を表する。</p> <p>協会活動としては、学会、研修会等、開催の努力をしてきたが、行き届かなかった点多々ある。          その中においても、多くが会員を継続され、2021 年度も一緒に、国民の健康と幸福に取り組          んでいただけることに感謝申し上げます。</p> <p>2021/2022 年度は、組織再編製の準備期と捉えている。再編成の本丸は、地域活動推進部の          設置である。これは、士会、会員が更にやりがいのある作業療法の環境をつくるための部である。          臨床力の低下を改善するためには、現場、士会の取り組みを支えることが最も重要と考えている。</p> <p>他方、作業療法は地域包括ケア、運転、認知症、地域、学校、司法、産業保健等の領域で益々          その重要性は高まると考える。それらの実績を蓄積し作業療法の可能性を社会に示し、制度の          枠組みにそれらが位置付けられるように取り組む。その結果として、2025 年のカリキュラム          改定では、それらを含むカリキュラムになれば未来は明るい。</p> <p>その他、組織再編成には、定款や諸規定の改定、協会事務システムの改変等様々の様々な作          業に取り組まなくてはならない。会員、士会、協会部・委員会、事務局、そして新しい理事体          制での総力を結集して取り組んでいきたい。引き続きのご支援を賜れば幸甚です。</p>	

	<p>ハヤサカ トモナリ  <b>早坂 友成 (44 歳)</b>                      所属：杏林大学</p>
	<p><b>協会活動歴：</b>  <b>【部署活動履歴】</b> 教育部 研修運営委員会委員長 2013.06-2021.03          事業部部員 2006.05-2009.06          教育部部員 2011.06-2017.03          制度対策部部員 2013.07-2015.03          地域包括ケアシステム推進委員会委員 2015.06-2018.03  <b>【その他の役職歴】</b> 社員(東京都) 2019.12- 現在</p>
<p>私は、日本作業療法士協会の事業にこれまで15年間携わり、教育部の研修運営委員長を8年務めました。主な活動は生涯教育制度や重点活動項目に関連した研修会事業を推進し、作業療法士の質の担保と向上に尽力しました。そのなかでも、作業療法全国研修会を約10年間に渡り、全国23の士会様と協業させて頂いた経験は、私が作業療法に携わるうえでの礎となっています。この度は、これまでの活動を振り返り、作業療法の更なる発展に寄与するため、立候補させて頂きました。</p> <p>私の公約は3つございます。1つ目は、研修会の改革です。これまでの研修会は主に対面型で、都市部開催が多く、遠方の会員や家庭の事情を抱えた会員などには、十分な学びの機会を提供できませんでした。そのため、既に取り組みを開始したe-ラーニングやオンラインによる学びの機会を充実させ、全ての会員が常に自己研鑽できる環境を整備できるよう努めます。2つ目は、臨床、教育、研究における精神科作業療法士の活躍を推進します。私は精神科作業療法士として、医療や地域における役割の確立、学術におけるエビデンスレベルの向上、この2点を重要課題と考えています。そのため、これらを推進する事業へ積極的に参画します。3つ目は、各都道府県作業療法士会様と共に、作業療法を支える人材の育成を更に推進させたいと考えます。当会のみならず全ての士会様においても、職能団体としての未来を牽引する人材は必須です。そのため、私は47都道府県委員会への参画を切に希望し、連携の基盤となる「協会員＝士会員」の実現を推進します。</p> <p>最後に、私はこれからも作業療法の発展に邁進いたします。ご支援を何卒お願い申し上げます。</p>	

理事 19

	<p>ヒガシ ユウジ 東 祐二 (57 歳)                      所属：本人希望により表記なし</p>
	<p><b>協会活動歴：</b>  <b>【役員履歴】</b> 理事 2009.06-2013.05                            常務理事 2013.05-2013.12  <b>【部署活動履歴】</b> 保険部部長 2001.06-2009.06                            広報部部長 2013.06-2014.03                            制度対策部副部長 2011.06-2013.05                            学術部副部長 2013.05-2015.05                            事業部部員 1995.08-1997.07                            企画調整委員会委員 1999.05-2003.06                            保険部部員 2000.07-2001.07                            教育部部員 2016.10-2021.03                            制度対策部部員 2017.04-2021.03  <b>【その他の役職歴】</b> 社員(宮崎県) 2011.12-2013.12</p>
	<p>私は、これまで作業療法士としての臨床を主軸として研究・教育・行政・機器開発・協会活動など多様な場面で専門性を活かした活動を経験させて頂きました。これらの経験を活かして協会活動に寄与すべく立候補した次第です。</p> <p>さて、日本の作業療法士数は10万人に迫り、協会員数は6万3千人を超えました(2021年1月現在)。今後はさらに質を求められる時代になったと考えます。</p> <p>また、COVID-19による人の生活への影響に伴い、作業療法の実践や臨床教育のあり方にも適切な実践対応が求められています。</p> <p>一方、地域包括システムなどの関連分野における作業療法の有効活用や機器開発への参画など、作業療法に関連する多様な分野で専門性を活かした関わりも重要です。</p> <p>このような背景のなか、専門職団体として、国民のニーズに応えることのできる、よろこんでもらえる作業療法を提供するために必要な環境を整備することが重要かと考えます。</p> <p>具体的には、質の高い作業療法を実践(臨床)すること、必要な人材を養成(教育)すること、作業療法の役割を証明(研究)すること、その役割をアピール(広報)すること、これを協会の立場で牽引し基盤をさらに整備強化することかと考えます。</p> <p>また、協会意見を示す根拠となるデータ等の整備と分析、施策提案等の機能を強化し、世情の変化に対する即応能力を高める必要があると考えます。</p> <p>さらに、COVID-19の影響に適切に対応する臨床・教育実践等を支援することや多様な分野からのニーズに応える人材育成とキャリアアップにつながる支援を行うなど、多様な課題に対応すべく、会員の皆様や諸先輩方のお知恵や意見を拝聴しながら力を合わせて取り組んでゆければと考えています。</p>



理事 21

	<p>ミサワ コウジ 三沢 幸史 (60 歳)                      所属：多摩丘陵病院</p>
	<p><b>協会活動歴：</b>  <b>【役員履歴】</b> 理事 2019.06- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 規約委員会委員長 1997.08-2001.07          広報部部長 2001.06-2007.06          教育部副部長 2019.06- 現在          制度対策部副部長 2019.06- 現在          学術部 高次脳機能障害検討委員会委員長 2001.11-2005.06          協会=士会員実現に向けた検討委員会委員長 2020.06- 現在          白書委員会副委員長 2019.06- 現在          事務局局員 1991.08-1993.07          規約委員会委員 1991.08-1997.07, 2001.06-2003.06          30 周年記念誌編集委員会委員 1995.08-1997.07          30 周年記念式典準備運営委員会委員 1995.08-1997.07          企画調整委員会委員 1997.07-2003.06          広報部部員 1999.03-2001.07, 2003.03-2009.06          医療福祉チャンネル 774 番組等検討委員会委員 2001.06-2003.06          40 周年記念式典準備運営委員会委員 2004.11-2005.06          40 周年記念事業実行委員会委 2005.06-2006.06          事業部部員 2007.09-2009.06          50 周年記念式典実行委員会委員 2016.04-2017.03  <b>【その他の役職歴】</b> 社員(東京都) 2011.12- 現在</p>
	<p>1 期目の理事としての任期も残りわずかになりました。この 2 年間を振り返りますと、会員の皆さんに約束したことで達成できたとはっきりと報告できるものは必ずしもありません。前回の立候補時に課題として挙げさせていただきましたことは、地域から作業療法士とその専門性が理解され頼りにされつつある一方でまだまだ足りない人材を育てるための教育体制整備、協会が進めてきた施策が作業療法士全体に広く浸透しているとは言い難い現状、士会と協会がともに協力し合い発展していく体制整備でした。そこで、理事としてもう 1 期活動できるチャンスをいただき、未完の仕事を少しでもすすめるために立候補いたしました。</p> <p>個々の作業療法士が、作業療法対象者のためにあり、関連職種・他機関から頼りにされ、自分の職業に誇りをもてるために活動してまいります。どうぞよろしくご願ひ申し上げます。</p>

	<p>ミヤグチ ヒデキ 宮口 英樹 (58 歳) 所属：広島大学</p>
	<p><b>協会活動歴：</b>  <b>【役員履歴】</b> 理事 2013.05-2017.06          常務理事 2017.06-2019.05          副会長 2019.05- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 生涯教育部専門作業療法士制度委員会委員長          2009.06-2011.06          学術部副部長 2013.05-2016.03          学術部部长 2017.06- 現在          研究倫理審査委員会委員長 2017.06-2021.03          事業部部員 2001.06-2007.06          生涯教育部部員 2006.07-2011.06          教育部部員 2011.06-2021.03          運転と作業療法委員会委員 2016.05-2021.03          学術部部員 2017.04-2021.03          倫理委員会(常設) 委員 2017.06- 現在          白書委員会委員 2019.07- 現在  <b>【その他の役職歴】</b> 社員(広島県) 2011.12- 現在</p>
<p><b>健康と幸福に寄与する作業療法を</b></p> <p>2021 年、我が国の OT 有資格者は 10 万人を超えます。有資格者数が増えることは我々にとっては喜ばしいことですが、社会から見ると作業療法が目にとまる機会が増えることを意味します。今まで作業療法を知らなかった国民が OT に出会った時、素晴らしい仕事だと思ってくれる存在であることが大切です。</p> <p>協会の新定義の特徴には、目的に健康とともに「幸福」が謳われています。作業療法では、重度の障害によって社会参加が得られにくい場合でも、幸福や QOL を追求することは可能とする考え方があります。この考え方に共感できることは素晴らしいことです。幸福をどのように捉えて作業療法を展開するか問われています。</p> <p>医療技術の著しい進歩は、生存率の向上から複数の疾患を重複した患者像へのリハビリテーション技術の発展を促しています。また、生活環境は、感染症、AI 技術進歩による仕事の変化等への適応を求めています。SDGs の目標や Society 5.0 の時代にも適応できる作業療法を考えておく必要があります。</p> <p>私は、理事として 8 年間、作業療法の学術的地位向上に尽力してきました。「運転と作業療法委員会の設立」「司法矯正施設での OT の雇用」につながる実績の他、現在は、「組織的学術研究体制の整備」「ICF の活用促進」「協会員への研究倫理審査体制の整備」を行っています。次期理事への立候補は、「他団体との共同・委託研究事業の整備」「学術評議員会(仮称)の設置」「国際誌 As JOT の発展」を念頭に置いています。</p> <p>イノベーションが求められる時代だからこそ、健康と幸福に寄与する作業療法の本質を作業療法士が自信を持って発信できる協会づくりを目指します。</p>	

理事 23

	<p>ムライ チガ 村井 千賀 (60 歳) 所属：石川県立高松病院</p>
	<p>協会活動歴：  <b>【役員履歴】</b> 理事 2017.06-2019.05          常務理事 2019.05- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会委員長          2013.04-2014.03          制度対策部副部長 2017.06- 現在          保健福祉部部員 2005.06-2009.06          学術部課題研究審査委員会委員 2006.07-2011.06          学術部部員 2009.10-2015.03          事務局局員 2012.10-2013.03          倫理委員会(常設) 委員 2019.06- 現在</p>
<p>今期は協会と都道府県士会の一体的推進が図られる年でもある。協会は社会的動向に目を向け、より対外的な渉外活動にいよいよ力を注ぐべきであると考えられる。</p> <p>これまで介護保険担当理事として令和三年改定では、①通所リハビリテーション(以下リハ)における生活行為向上リハの必要性、②老人保健施設等における寝たきり防止、③医療機関と福祉用具に関する連携の必要性など作業療法士の技術を提案した。今後は、介護保険領域で働く作業療法士の情報交換の機会を提供するなど、その機能が発揮できるような方策を一層推進していきたい。また、日本医師会と連携し、かかりつけ医に対する作業療法の普及啓発戦略を企画したい。</p> <p>また、精神科担当理事として令和元年度「地域包括ケアに貢献する精神科作業療法の在り方」、令和2年度「当事者が望む精神科作業療法の在り方」をとりまとめ、精神科作業療法について、医師等関係団体へのPRを推進した。今後は、さらに日本精神科病院協会等との連携を深め、精神科作業療法士の機能の強化と地位の向上について働きかけていきたい。</p> <p>認知症担当理事として、認知症大綱に参画すべく官民協議会への作業療法の機能と役割を周知してきた。今後は、老年精神神経医学会や認知症家族の会との連携を推進し、作業療法士として貢献できることを働きかけていきたい。</p> <p>最後にMTDLPではアセスメントの考え方として国際生活機能分類(ICF)を活用しているが、さらにICFを活用し、精神科作業療法のデータ収集システム等の開発を行い、精神科作業療法の標準化に向けた取り組みに着手したい。その上で作業療法におけるICFの効果的普及啓発の在り方を検討していきたい。</p>	





**監事立候補**



## 監事 2

	<p>サワ シュンジ 澤 俊二 (70 歳) 所属：岐阜保健大学</p>
	<p>協会活動歴： [役員履歴] 理事 1977.06-1979.05 [部署活動履歴] 養成教育部部長 2009.06-2011.06 教育部 養成教育委員会委員長 2011.06-2018.03 渉外部部員 1977.07-1979.06 学術部部員 1979.07-1985.07 老人問題専門委員会委員 1985.08-1987.07 認定作業療法士審査等委員会委員 2006.01-2006.04 認定作業療法士審査等委員会(常設)委員 2006.04-2007.06 教育部部員 2013.04-2021.03</p>
<p>[理事会推薦候補]</p> <p>皆様 監事に立候補いたします。 OT 協会に入って 45 年。最後のご奉公と心に決めました。 何卒よろしく願い申し上げます。</p>	



**会長立候補**

会長 1

	<p>カヤマ アケミ 香山 明美 (61 歳) 所属：東北文化学園大学</p>
	<p><b>協会活動歴：</b>  <b>【役員履歴】</b> 理事 1999.08-2001.07          常務理事 2001.06-2015.05          副会長 2015.05- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 痴呆に対する作業療法検討委員会委員長 2002.06-2004.03          事務局次長 2011.06-2016.03, 2017.06-2019.05          災害対策室室長 2013.04-2016.03, 2017.06-2019.05          事務局長 2019.06- 現在          災害対策室副室長 2019.06- 現在          表彰審査会委員長 2015.06-2016.03, 2017.06-2019.05          表彰審査会副委員長 2019.06- 現在          広報部部长 2019.06- 現在          広報部機関誌編集委員会委員長 2019.06- 現在          倫理委員会(常設)委員長 2019.06- 現在          白書委員会委員長 2019.06- 現在          渉外部部員 1997.08-1999.07          教育部部員 1999.08-2003.06, 2004.07-2005.06          広報部部員 2001.06-2003.06, 2016.02-2021.03          学術部部員 2001.06-2003.06          作業療法成果検討委員会委員 2001.06-2004.03          第16回 WFOT 世界大会組織委員会委員 2009.06-2011.06          倫理委員会(常設)委員 2013.05-2016.03, 2017.06-2019.05          表彰審査会委員 2014.01-2015.05          47 都道府県委員会委員 2015.04-2017.03          認知症の人の生活支援推進委員会委員 2015.04-2017.03          障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会委員          2018.04-2021.03          多発する多様な倫理問題の適切な処理と取り扱い組織等          に関する検討委員会委員 2020.07-2021.03  <b>【その他の役職歴】</b> 社員(宮城県) 2011.12- 現在</p>
	<p>2021年3月11日東日本大震災から10年となる日に、会長に立候補しようという思いに至りました。          これまで20年以上にわたり役員として活動を行い、この数年は副会長(事務局長)として会長を支える役割を担いながら協会活動を行って参りました。協会は「組織改編」、「協会員=士会員」、「生涯教育制度の見直し」等大きな課題を目の前にして転換点を迎えています。          今年は、作業療法士が10万人を超える年にもなります。その実践場所も医療から保健、福祉、教育、地域等多岐に渡り、幅広い対応力が求められています。協会としては、幅広いニーズに対応できる作業療法士教育に力を入れていくことが急務だと認識しています。          「会員ひとりひとりが広報マン」これは数年前からの協会の広報キャッチフレーズです。対象者の方への「その人らしい生活を支援する」作業療法士一人一人の実践が、作業療法を正しく伝えることであり、有効な広報戦略でもあると思っております。作業療法が多くの方々の「その人らしい生活を支援できる」実践を更に積み、国民の健康に資する職業として選ばれることを目指す必要があると認識しています。          そのため今、日本作業療法士協会には、目の前の実利に目を奪われることなく、様々な世情に流されることのない、作業療法士として作業療法の本質を貫き通すことができる会長が必要だと思えます。私は、初代会長から4代続いた女性会長の意思を引継ぎながら、女性の作業療法士が活躍できる、そして毅然とした協会活動を展開する必要があると認識し会長に立候補すること致しました。          残された作業療法士人生をかけて、協会活動に邁進するつもりです。どうぞよろしくお願い致します。</p>

## 会長 2

	<p>ナカムラ ハルキ  <b>中村 春基</b> (65 歳)                      所属：一般社団法人 日本作業療法士協会</p>
	<p><b>協会活動歴：</b>  <b>【役員履歴】</b> 理事 1985.08-1989.07                            常務理事 1989.08-2001.07                            副会長 2001.06-2009.06                            会長 2009.06- 現在  <b>【部署活動履歴】</b> 福利部部長 1989.08-1991.07                            広報部部長 1991.08-1995.7                            事業部部長 1997.08-2001.07                            渉外部部長 2001.06-2009.06                            評価法検討委員会委員 1983.06-1985.07                            学術部部員 1985.08-1991.07                            広報部部員                            1987.08-1989.07, 1999.08-2001.07, 2003.06-2005.06                            身体障害作業療法委員会委員 1989.08-1991.07                            事業部部員 1995.08-1997.07                            企画調整委員会委員 1995.08-1999.07, 2001.06-2003.06                            30周年記念式典準備運営委員会委員 1995.08-1997.07                            30周年記念誌編集委員会委員 1995.08-1997.07                            表彰委員会委員 1997.08-2001.07                            公益法人制度対策委員会委員 2009.06-2011.06  <b>【その他の役職歴】</b> 社員(兵庫県) 2011.12- 現在                            WFOT 代表 2015.06- 現在</p>
<p>会長を 12 年経験し目標の重要性を感じている。ついては私の中期的な目標と実現するための具体的な取組みを述べる。</p> <p><b>修業年限 4 年制以上を目指して</b></p> <p>我が国の根底には学歴社会がある。従って作業療法士は最低、大学卒業となることが望ましい。その前段階として 2025 年カリキュラム改定検討委員会(予定)において修行年限を 4 年制以上とする報告書にしたい。準備期間はあと 3 年である。現行 101 単位を 123 単位以上にする必要を臨床、教育、研究において示す必要がある。現行カリキュラムの深化、充実に加え例えば福祉、学校、保健、産業、司法、災害等の科目が新設できれば作業療法の活用は更に推進されると思う。</p> <p><b>研修の義務化</b></p> <p>医療における作業療法士の責務は「常に最高の知識と技術を提供する」ことである。それは永い医療の歴史の中で質の高い人材集団を前提に質を保証する学会、職能集団に加盟し研鑽を積むという構造の中で維持されてきた。しかしながら非会員が 35%以上の現状では、非会員を含んだ研修の仕組みが必要である。また研修を受けなければ作業療法に従事できないような制度構築が必要と思う。具現化の肝は他職種との目標の共有と枠組みの策定と考えている。</p> <p><b>登録制、登録の更新制</b></p> <p>これについては国家資格そのものの考え方の整理が必要であるが、国民に一定の質の作業療法をお届けするためには必要と考えている。</p> <p>何れも項目も会員にとっては努力を強いる制度であるが、「専門家」たるものは何かを自覚頂き共に取り組んで頂ければ幸いである。</p> <p>最後に、協会の役割は国の制度、報酬体系等の中に、確実に「作業療法」の 4 文字を載せることである。「活動と参加」の春風の中、取組みの踏ん張りどころである。</p>	

**JAPAN**  
**01**